

A. 第三者評価結果（「機関評価」の部分）

評価スケール	自己評価	機関評価	評価スケール	自己評価	機関評価	評価スケール	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	B	B	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	A	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	非	非	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A
2.3.3	A	A	6.1.2	A	A			

B. 評価機関の所見

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール番号	内 容
1-4-5	毎年1回、自己申告書の提出にて職員の意向を確認しています。退職の予定、研修の希望など意向把握のほか、「仕事に対する評価」として、難しさ、仕事量、適正、能力となった、健康面、総合評価を記載する項目があり、自分自身の振り返りも行うことができる書式となっています。振り返りを通して次年度に向けて自分の意向を表明することは双方にとって客観的に現状を捉える良い機会となっています。
2-3-3	安全衛生、行事实行、苦情・相談、研修、事故ゼロなど多様な委員会活動があり、各委員会のトップが集まり

	課題を検討する、サービス向上委員会にてホーム内でのサービスの質向上に取り組んでいます。各委員会では、入居者から意見や相談があがった場合、その内容に該当する委員会では、ケーススタディを行うこととしています。寄せられた言葉の真意はどこにあるのか、どうしてそのような言葉が出てきたのかを知った上で適切な対応ができるようにとの意図を持って実施しています。「本人の自立意思を尊重した介護や見守り支援を行うこと」というホームの方針を実践する取り組みと推察されます。
2-4-3	450件を上回るヒヤリハット報告が提出され、60件の事故報告に対する再発予防策は事故ゼロ委員会において検討しています。その際、転倒事故を取り上げてケーススタディにて要因分析も行っています。ヒヤリハットの内容については、入居者や家族からお菓子をいただいたこともヒヤリハットとしてあげており、様々な案件が再発なのかどうかも検証し、朝礼であがっているヒヤリハットについて確認し合い注意喚起しています。他の職員の気づきを自分の気づきにつなげることで、安全管理についての感度をあげて取り組めるよう徹底した情報共有が行われています。
4-2-2	各種アクティビティやサークル活動の実施にて、リハビリホール、ゆうゆうホール、多目的ホール、アスレチックジム等、利用予約がたくさん入っており、入居者がそれぞれの趣味などを日々楽しんでいることがうかがえます。ホームで企画し開催している「ゆうゆういきいき講座」は入居者、家族のほか地域の方々にも案内し、交流の機会にもつながっています。入居者同士の交流を深める機会としては、同じ誕生日の方々を招いて行う、茶話会があります。職員が仲立ちして入居者を紹介し、食事サービス課からのプレゼントされるケーキをいただきながらひと時を過ごしています。また、生活サービス課からはバースディカードが送られ、特別な日を皆でお祝いしています。
5-1-1	今年度は法人内他7ホームで提供している食事の人気メニューを取り入れて提供する取り組みを進めています。選択食の導入や季節ごとの行事食、誕生日の祝い膳など、豊富なメニューがありますが、当ホームでは、「全国食べ歩きメニュー」と題し、毎月、全国各地の郷土料理もメニューに取り入れて提供しています。「食」が入居者の方の楽しみの一つであることを踏まえた中で、栄養バランスも考慮しつつ、入居者の要望を取り入れながら入居者に喜ばれる食事提供を目指し、取り組んでいます

## 2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール番号	内 容
6-2-1	ケアプランは入居者・家族の意向を把握した中でケアマネジャーを中心に多職種で検討を重ね作成しています。ケアプランで示している短期目標を達成すべくサービス内容についてはモニタリングを行い、入居者の現状に即したサービスを提供できるよう取り組んでいます。しかしながら、ケアプランの短期目標に対するサービス内容は様々な項目が挙げられていますが、多職種でケアプランを意識して取り組むことに現状は視点を置いているため、内容の充実はまだ検討の余地があります。また、ケアプランに記されているサービス内容について入居者がどのように取り組み、現状がどうであるかを確認できる日々の記録についても連動性が薄く、十分な記録量とは言えない状態です。日々の記録は入居者の状態を検証し、ケアプランの見直しやケース会議における検討時には大切な材料となるものです。モニタリングについても、短期目標のどのサービス内容の部分が達成されていて、どのサービス内容についてはまだ未達成なのか等、具体的な記載への工夫が必要となります。ケアプランに沿って取り組んでいる内容に連動した記録を重ねていくことにより、少しの変化でも捉えることができ、入居者だけでなくケアにあたる職員にとっても分かりやすい成果として実感できると推察されます。また、入居者が取り組んだ達成度合い、取り組んでいる際の入居者の様子（エピソード）を記録で積み重ねていくことで、入居者の「実現可能な目標」に対する気づきを共有できると推察されます。入居者の状況をより把握しやすくなるよう記録の連動性、重要性等について改めて検討し取り組むことが期待されます。
6-2-2	
6-2-3	